

令和4年度第1回通常理事会、令和4年度定時評議員会議決

令和3年度 事業報告書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

公益財団法人 仏教伝道協会

公益財団法人仏教伝道協会 令和3年度事業報告書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。ついで、定款に定める事業に沿って「令和3年度事業報告」を致します。

令和3年4月1日より令和4年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

1. 公益目的事業報告（公1）

1. 趣旨（目的）まとめた理由

仏教典籍の現代語訳、外国語訳を行いその刊行、普及事業や仏教関連の各種講座、研究会の開催による仏教精神の啓蒙活動、さらに仏教音楽祭などによる仏教文化の興隆と継承活動、また仏教精神、学術、文化の振興に積極的に関わってきた個人、団体への顕彰・助成等いろいろな支援事業を通して、世界中の一人でも多くの人に仏教を理解して頂き、豊かな人間性を育て、より良い社会の形成促進をもって人類の幸福と世界平和の実現という共通の目的達成の手段であり、下記の2-1) から2-3) までの事業はつながりのあることから一つにまとめている。

2. 事業

2-1) 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

1. 仏教聖典の現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

◇「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に仏教思想を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳を進めている。現在、翻訳言語数は46言語。令和3年度は、「エスペラント語仏教聖典」の再改訂を終了し、インドの公用語であるマラーティー語を翻訳中である。

また「和文仏教聖典」を現代に即した内容にするための全面的な改定を行っており、より詳細な典拠の確認作業と本文の見直し作業を進行中である。

◇「仏教聖典」のホテル普及について

「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動を推進し、国内のホテル44軒、海外のホテル39軒より新規申し込みを受けた。

新規・補充を合わせた日本からの令和3年度の寄贈冊数は、国内5,985冊、海外6,167冊であった。海外協力機関からの寄贈も含めたホテル累計寄贈数は64ヶ国、15,674軒・4,146,667冊に至った。

◇聖典ボランティアによるホテルへの寄贈活動の促進について

地域に根差した布教活動を実施している僧侶・寺族の方がたに「聖典ボランティア」として仏教聖典のホテルへの寄贈活動の支援者として参画をお願いしている。

すでに57名が登録されて活動し、令和3年度の国内ホテル寄贈の内新規ホテル28軒 748冊、補充ホテル12軒 501冊がボランティアの実績である。

◇『簡体字仏教聖典』中国国内頒布について

宗教文化出版社との図書出版契約に基づき、『簡体字仏教聖典』1万部を印刷した。現在、中国仏教会を通じて中華人民共和国内各地の寺院へ頒布すべく、中国共産党から最終の許可を得ているが、コロナの影響で、中国への渡航が制限され、既に印刷した1万冊の贈呈式ができない状態となっている。また令和3年度計画していた追加1万冊の印刷・頒布も計画を一時停止している。

◇「仏教聖典」の教育機関等への普及について

仏教的情操教育を推進するための教育機関等への仏教聖典頒布活動は、令和3年度、大学・短期大学72校、中学校・高等学校86校、保育施設743園を中心に行い、総計で25,709冊を寄贈した。平成24年度からの頒布開始以来、8年間の寄贈数累計は約465,000冊、寄贈先は全国の仏教系大学・高校の約70%に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として12,451冊販売した。

◇インターネットでの「仏教聖典」頒布について

より多くの方がたに、母語で仏教聖典に触れていただくために平成31年3月より各国語仏教聖典のPDFデータをホームページに掲載し、全世界からのダウンロードが可能となった。令和3年度も世界78ヶ国からさまざまな言語の聖典が6,292件ダウンロードされ、これまでの総ダウンロード数は12,401件となった。

また令和3年度は「仏教聖典」電子書籍版320冊、オーディオ版「仏教聖典」65冊を販売した。

◇『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』頒布について

大学・高校等の教育現場で好評な『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』の普及活動を行い、26,403冊を寄贈した。またカラー版の『ブッダに学ぶさどりの言葉』と合わせ、全国寺院や書店などに1,814冊を販売した。

◇『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』スペイン語版翻訳について

一般読者にも仏教への関心が高まることを目的とし、「仏教聖典」をより身近な聖典とするために作成した副読本『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』だが、英語版に引き続きスペイン語版の翻訳を進めている。令和4年度中にBDKメキシコより出版の予定である。

◇『ブツダのおしえ』普及について

『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブツダのおしえ』は、外国人観光客に日本仏教を紹介するツールとして好評を博している。令和3年度は全国の有名観光寺院やミュージアムを中心に、日本語版約22,500冊、各国語版約4,000冊を寄贈した他に、日本語版約8,000冊を販売、合計34,500冊を頒布した。平成23年からの累計寄贈冊数は約1,230,000冊となった。

2. 英訳大蔵経の刊行、頒布事業に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を当協会と米国仏教伝道協会の共同事業として、第1期分139典籍の刊行を進めている。令和3年度は『大乘法相研神章』『金光明最勝王経』の2典籍の翻訳を受領した。また、大乘思想から密教までの教理を網羅したインド大乘仏教後期の経典である『大乘本生心地観経』、瑜伽行派の教理を組織した論書である「弁中辺論」と、仏教の教理についてミリンダ王と仏教僧ナーガセーナが問答する「那先比丘経」を収めた『弁中辺論・那先比丘経』の2冊の書籍を刊行した。現在までに部分受領典籍を含めた94典籍を63巻の「英訳大蔵経」として出版し、27典籍が翻訳進行中である。

3. その他仏教書籍の出版、頒布事業に関する事項

◇「一日一訓カレンダー」と解説書「みちしるべ」普及について

仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育園等へ「一日一訓カレンダー」とその解説書を制作、頒布している。

令和3年度は、「一日一訓カレンダー」六波羅蜜シリーズ2冊目の「持戒」を刊行。壁掛け型・卓上型を製作し、合計約134,000部を頒布した。また、カレンダー解説書—みちしるべ『よりよく生きる—持戒—』（執筆者 山川宗玄師、林田康順師、白川密成師）を教化教材として刊行し、約39,000冊を全国の寺院に頒布した。

◇「一日一訓カレンダー」フォトコンテスト及び写真展について

写真を通してより多くの人びとに仏教に親しんでいただくため、「2023年一日一訓カレンダー」用の掲載写真を一般公募する「第8回フォトコンテスト—ほとけの心」を開催した。令和3年1月から令和3年8月末までの応募期間中に824件2,791枚が集まり、令和3年9月8日にカレンダーフォトコンテスト選考委員会を開催。厳正な審査の上、入選作品32点を選定した。入選作品を掲載したカレンダーは令和4年7月上旬発行予定。

また「第7回フォトコンテスト入選作品の写真展」を東京の築地本願寺（令和3年4月24日-6月13日）、京都の平等院（令和3年6月25日-9月26日）、宮城の瑞巖寺（令和3年10月8日-11月24日）にて開催した。

平等院の写真展では、開催期間中の8月6日、カレンダーの文言の揮毫を依頼している書家 鈴木猛利氏による「書道パフォーマンス」を昨年度に続き披露した。

令和3年度は3会場合わせて期間中、約18万人の観光客が来場、入選写真と文言の書を鑑賞した。

◇「釈尊絵伝絵画展」について

7/16（金）-23（金）野生司香雪画伯顕彰会がインド大使館にて開催した絵画展に「釈尊絵伝」原画2点（牧女の供養・涅槃）を出品した。

また、平等院 神居文彰住職による「釈尊絵伝」の解説動画を収録し、HPに公開した。

なお、令和5年5月、長野市仏教会と共催で「野生司香雪展」（北野カルチュラルセンター）を開催することが決定している。

◇紙芝居『ブッダ〜おしゃかさまの一生』販売について

手塚プロダクション監修紙芝居『ブッダ〜おしゃかさまの一生（前編・後編）』を主に寺院向けに2000セットを印刷し、令和2年度より販売を開始。

価格は4,500円（消費税・送料込）。令和3年度は140セットを販売した。

◇『釈尊絵伝すごろく 煩惱／復刻版 浄土双六』の製作・販売について

当協会所蔵「釈尊絵伝」と曹洞宗大本山永平寺所蔵「インド壁画下絵」を使用したすごろく（裏面には「復刻版 浄土双六」収録）を製作し、7月より販売。価格は5,000円（消費税・送料込）。令和3年度は633個を販売した。

◇「こころの絵本大賞」開催について

鈴木出版（株）協賛、毎日新聞社・（公社）日本仏教保育協会・（公財）全国青少年教化協議会後援のもと、家族・友だち・勇気・いのち・おもいやり・愛情をテーマに、子どもたちにこころの大切さを伝えるための絵本作品を広く一般から募集する第6回「こころの絵本大賞」を開催。令和3年9月15日にこころの絵本大賞選考委員会が開かれ、145点の応募作品の中から入選作品8点を決定した。

第6回大賞受賞作品『しろくまがきたぞ！』（作・絵／山川典夫）は、令和4年3月に刊行、全国の寺院・仏教系保育施設に約3,700冊を頒布した。

また、第5回大賞受賞作品『がまぐちさん』を寺院、保育施設を中心に約12,000冊を頒布した。

◇『とってもやさしい はじめての仏教』普及について

初心者向けに仏教の歴史や宗派、仏教用語などを簡潔に解説した冊子『とってもやさしい はじめての仏教』だが、令和3年度度は和文 約31,000冊と、英訳版・中国語繁体字版・中国語簡体字版・スペイン語版 約12,000冊を海外協力機関、寺院やミュージアム、観光案内所などを中心に寄贈した他に、日本語版 12,700冊を販売、合計 55,000冊を頒布した。平成27年度からの累計頒布冊数は約694,000冊となった。また、日本語版・英語版の電子書籍を無償公開しているが、令和3年度には3,008件がダウンロードされた。

2-2) 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

1. 留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

令和3年度は世界の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでの一般公募に合わせて11名の応募があり、令和3年2月8日に開催された仏教学者からなる外国人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、Lixin Zhang氏（張藍心氏、中国国籍、京都大学）、Simona Lazzerini氏（シモナ・ラッゼリーニ氏、イタリア国籍、早稲田大学）の2名を選出。令和3年度内に支給開始予定であったが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け両名は令和3年度中に来日できず研究計画を変更し、令和4年度以降の支給開始予定となった。令和2年度奨学生として選出されていたLiu Hua氏（華 黎裕氏、中国国籍、東京大学）については本人の意向で受給を辞退したいとの申し出があり正式に受理した。尚、令和4年度奨学生（通常令和3年度に募集・採用、令和4年度に受給）については新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け募集を中止した。

◇日本人留学生奨学金制度について

海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学ぶ、日本人の学者・研究者または学生に対して日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

令和3年度は日本の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでも一般公募し、結果1名の応募があり、令和3年2月8日に開催された仏教学者からなる日本人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、小坂有弘氏（ドイツ・ハンブルク大学、1年留学）を選出。令和3年度内に支給開始予定であったが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け渡航予定を令和4年4月からの受給に変更した。令和2年度に選出された渡邊真儀氏（インド・アショーク大学、4ヶ月留学）については本人の意向で受給を辞退したい旨申し出があり正式に受理した。尚、令和4年度奨学生（通常令和3年度に募集・採用、令和4年度に受給）については新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け募集を中止した。

◇「奨学生交流会」開催について

来日中の外国人奨学生およびその指導教授、これから留学する、または既に留学を終え帰国した日本人奨学生を対象に、奨学金審査委員のご同席のもと、互いの研究内容を共有し、交流を深めていただく目的で「奨学生交流会」の開催をしていたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の状況を受け令和3年度も開催を見送った。

2. 顕彰事業に関する事項

国内外を問わず、仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった個人または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる個人または団体に「仏教伝道文化賞沼田奨励賞」を贈呈する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている。

令和3年度は、4月下旬より仏教各宗派本山、仏教会、教務支所、仏教系学校、海外各仏教宗派教団本部等に約800通の推薦依頼書を送付、ホームページでも周知を図り、仏教伝道文化賞に28通、沼田奨励賞に26通の推薦書を受領した。

この推薦書をもとに、令和3年7月29日、仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、下記の2名に賞を授与する事を決定、同年10月14日、第55回仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金と記念の盾を贈り表彰した。

各受賞者名、受賞理由は次の通り。

- ・ 仏教伝道文化賞（賞金500万円） 小川一乗 氏(大谷大学名誉教授)
受賞理由：インド仏教の根本思想を深く研究。ひろく教化に尽くした功績を讃えて。
- ・ 沼田奨励賞（賞金300万円） 高岡秀暢 氏(曹洞宗 徳林寺住職)
受賞理由：自坊に外国人等の受け入れを実践。ネパール仏教の文化財保存活動に尽力

3. 助成事業に関する事項

◇団体等への助成について

当財団の事業目的と同じ目的を持ち、その活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。令和3年度は、令和3年1月25日（月）に開催された助成金審査委員会の決定に基づき、以下の法人・団体に対して、国内13,800,000円、海外£30,000（4,550,700円）、€111,000（14,448,870円）、CA\$240,000（20,841,600円）、2,810,000円の助成を実施した。

助成先法人・団体

〈国内・団体支援助成〉

日本印度学仏教学会、特定非営利活動法人鎌倉てらこや、
フリースタイルな僧侶たち

〈国内・事業支援助成/仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動〉

公益財団法人全国教誨師連盟、H1法話グランプリ実行委員会、
一般社団法人Project Gamon、公益社団法人大谷保育協会、
島根県仏教会

〈国内・事業支援助成/仏教学術振興活動〉

公益財団法人中村元東方研究所、龍谷大学龍谷ミュージアム

〈国内・事業支援助成/仏教文化財保護活動〉

東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復彫刻研究室

〈海外・継続分〉

ロンドン大学、ハンブルク大学（「沼田仏教学センター」）、ライデン大学、マクマスター大学、国立政治大学、エト ヴェシュ・ローランド大学、ウィーン大学

また、以下は助成が決定したが新型コロナウイルス感染拡大による事業未実施のため不支給となった事業団体（不支給金額合計：5,300,000円）。

〈国内・事業支援助成/仏教学術振興活動〉

公益財団法人日独文化研究所

〈国内・継続分〉

身延山大学、野生司香雪画伯顕彰会

2-3) 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

1. 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

◇仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

一般の方々に、英語を通して仏教精神を学んでいただくことを目的とし、平成23年9月より月1回「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催してきた。平成28年度からは講座参加者の学習意欲向上と外国人観光客に英語で仏教を説明できる人材を育成することを目的として衣替えした「仏教英語ガイド」プログラムとして3級コースと2級コースを設けそれぞれ月1回の講座開催してきた。令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け完全オンライン講座として開講し3級コースに79名、2級コースに27名の参加申込があった。そして3級コース30名、2級コース23名が修了し、2級修了生の内4名を築地本願寺に「仏教英語ガイドボランティア」として推薦を行った。

また、「仏教聖典」をテキストに使用した「お寺de英語」を令和3年9月から令和4年2月まで全6回を山口県、浄土真宗本願寺派 超勝寺にて開講した。講師に同寺住職 大來尚順師を迎え、『和英対照 仏教聖典』を読み進めながら、適宜重要な箇所を日本語と英語で解説を行った。参加申込み者は10名であったが、講師の易しい解説とテキストとしての「仏教聖典」が好評であった。

◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが、「聞・思・修」一体となった仏道を自ら体験することによって、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

令和3年度は、5月12日から5月14日の間、伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「比叡山の仏道～回峯行に学ぶ」をテーマに掲げ、天台宗 総本山 比叡山延暦寺（滋賀県）を会場に「第50回実践布教研究会」の開催を予定したが、新型コロナウイルスの影響で令和2年度以来さらに1年延期した。

◇仏教聖典を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として、一般の方がたを対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。令和3年度はご講師に名取芳彦氏（もっとい不動 密蔵院住職・真言宗豊山派）、前田壽雄氏（武蔵野大学准教授）を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集。コロナの影響により4月・7月が中止となり、計8回開催、のべ185名の参加があった。

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び、事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的として、主に事業経営者や社会人を対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。令和3年度はご講師に一楽眞氏（大谷大学教授）、千葉公慈氏（東北福祉大学学長）を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集。コロナの影響で7月、地震の影響で3月が中止となり、計8回開催、のべ201名の参加があった。尚、懇親会は取りやめた。

また毎年開催の経営に活かす会、生活に活かす会合同の「秋季研修会」もコロナの影響で開催を見送った。

◇BDKシンポジウムについて

令和3年度は下記の3回のシンポジウムを企画、実施した。

なお、第53回仏教伝道文化賞を受賞した藤田徹文氏（浄土真宗本願寺派 光徳寺前住職）を講師に、令和3年10月20日、本願寺札幌別院（札幌市）にて開催を予定していたBDKシンポジウムは、新型コロナウイルスの影響のため、1年延期した。

各シンポジウムの開催概要は下記の通り。

令和3年度第1回BDKシンポジウム（通算25回目）

テーマ：「どうなる仏教」

開催日時：令和3年9月13日（月） 18:30～20:30

会場：仏教伝道センタービル（会場、オンライン同時開催）

講演者：鶴飼秀徳氏（僧侶、ジャーナリスト）

薄井秀夫氏（株式会社寺院デザイン代表取締役）

「アフターコロナ時代のあり方とは」という副題を設け、地域の過疎化等による寺院存続の危機、そこにコロナ禍で人々とお寺の交流が希薄になった今、お寺が取り組むべき課題は何なのかを考える機縁とすべく、特に寺院関係者向けに開催。お寺が淘汰されていく時代では今まで以上に人びとの心に寄り添うことが重要になっていくこと、そして形骸化しがちな儀礼の見直しが大きな課題となることが語られた。参加者会場10名、オンライン43名。

令和3年度第2回BDKシンポジウム（通算第26回目）

テーマ：「宗教の未来を話そう 2021」

開催日時：令和3年11月6日（土）13:00～15:30

会場：仏教伝道センタービル（会場、オンライン同時開催）

講演者：奥田知志氏（東八幡キリスト教会牧師・NPO法人抱撲理事長）

吉水岳彦氏（浄土宗光照院住職・社会事業委員会 ひとさじの会発足人）

田口ランディ氏（作家）

パンデミックによって格差・対立などの社会問題が浮き彫りになったいま、誰もが生きやすい社会をつくるために宗教にできることは何なのか。「ポストコロナの宗教のゆくえ」を副題に、3名の講師による講演とクロストークを実施した。伝統宗教が抱える矛盾や可能性についてそれぞれの立場から活発に意見交換を行った。参加者会場26名、オンライン42名。

令和3年度第3回BDKシンポジウム（通算第27回目）

テーマ：「現代社会の分断と調和を考える -最澄と徳一の論争を手がかりに-」

開催日時：令和3年3月5日（土）13:30～15:30

会場：仏教伝道センタービル（会場、オンライン同時開催）

講演者：師 茂樹氏（花園大学教授）

講師近著『最澄と徳一 仏教史上最大の対決について』の著作背景から、論争の内容、なぜ最澄は「論争史」を書いたのか等を解説。

後半は監視資本主義が進む現代にどのように人々が調和できるのかについて前半の内容を踏まえて論じられた。参加者会場23名、オンライン28名

◇BDK仏教ヨガ講座について

一般の方がたを対象に、身体と心の健康を養い、心や頭の整理をする場を持っていただくことを目的に、平成27年4月より月1回（毎月第1水曜日、午後7時から午後8時30分まで）「BDK仏教ヨガ講座」を開催している。講師は高野山真言宗の僧侶でヨガインストラクターのMOMO氏に依頼し、仏教の法話とヨガの実践、瞑想を交えた講座を開催した。またオンラインでも受講可能とした。令和3年度は年間を通してのべ375名（会場150名、オンライン125名）の参加があった。

◇仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」について

平成28年度より一般の方がたを対象に、日本仏教の宗派を毎月ひとつ取り上げて各宗派の基本的な教えや宗祖や著名な僧侶について解説する、仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」を開講している。

令和3年度は4月から11月まで、月1回（午後6時30分から午後8時30分まで）、対面とオンラインで同時開催。年間講座参加者数は会場のべ133名、オンラインのべ282名であった。

令和3年度の開講概要は以下の通り。

開催日程	宗派・宗祖	講師名
4月27日（火）	天台宗・最澄	木内堯大 氏（大正大学特任准教授）
5月25日（火）	真言宗・空海	名取芳彦 氏（真言宗豊山派密蔵院住職）
6月29日（火）	浄土宗・法然	林田康順 氏（大正大学教授）
7月27日（火）	浄土真宗・親鸞	井上見淳 氏（龍谷大学准教授）
9月28日（火）	日蓮宗・日蓮	山口顯辰 氏（日蓮宗池上本門寺学監）
10月26日（火）	臨済宗・栄西	松本隆行 氏（臨済宗建長寺派能満寺住職）
11月30日（火）	曹洞宗・道元	吉村昇洋 氏（曹洞宗普門寺副住職）

また、仏教についてももう少し深く勉強がしたいという定例講座参加者の要望に応え、令和4年2月26日（土）に東洋大学教授の渡辺章悟氏を講師に迎え仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」2021特別編「日本仏教における般若心経」を会場とオンラインで同時開催した。

日本に伝来するまでの般若経典の変遷と成り立ち、日本仏教における『般若心経』の扱いなどを紹介。特に明治期に識字率の低い地域において絵文字を用いた『般若心経』が流行したことは、参加者の興味を大きく引いた。参加者は会場44名、オンライン53名であった。

◇特別坐禅会について

一般の方がたを対象に坐禅とヨガのワークショップ、精進料理を体験しながら仏教を学ぶ「特別坐禅会」を平成28年から4回にわたり開催してきた。令和3年度は9月に開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により、会場である曹洞宗大本山総持寺での開催が不可能となり実施を見送った。

◇体感する仏教 ～目黒編～について

「様々な宗派のお寺で実践体験できる」というコンセプトのもと、ひろく一般の方がたに仏教を体験していただく「体感する仏教 ～目黒編～」を新型コロナウイルスの影響により令和2年度開催から令和3年度11月開催に延期していたが、状況が改善せず、開催を見送った。

◇連続仏教講座「世界の仏教を学ぶ」パート2について

令和元度から2年間の連続講座として連続仏教講座「世界の仏教を学ぶ」を企画。令和元年度はパート1として、インドから発祥した北伝（チベット・ネパール・ブータン・モンゴル・中国・韓国・台湾）の仏教を取り上げた。令和2年度から令和3年度に延期したパート2は、南伝（タイ・ラオス・カンボジア・インドネシア・ベトナム・ミャンマー・マレーシア）の仏教に焦点を当て、各国の仏教を学んだ。会場とオンラインで同時開催し、年間講座参加者数は会場のべ86名、オンラインのべ178名であった。

令和3年度の開講概要は以下の通り。

開催日程	テーマ	講師名
4月22日（木）	タイ	矢野秀武氏（駒澤大学教授）
5月27日（木）	ラオス	池上要靖氏（身延山大学仏教学部長教授）
6月17日（火）	カンボジア	小林知氏（京都大学東南アジア地域研究研究所教授）
7月29日（木）	インドネシア	木村敏明氏（東北大学教授）
8月26日（木）	ベトナム	石井公成氏（駒澤大学教授）
9月16日（木）	ミャンマー	藏本龍介氏（東京大学東洋文化研究所准教授）
10月28日（木）	マレーシア	黄蘊氏（尚綱大学准教授）

◇ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」について

若年層へのアプローチと仏教伝道協会の知名度の拡大をはかるため、関西圏をカバーするFM大阪にて、ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」の放送を平成30年6月より開始し、令和2年度からは放送時間を15分(毎週土曜日24時15分～24時30分)拡大し令和3年度も継続した。偶数月は僧侶、奇数月は著名人等をゲストに招き様々な角度から仏教を取り上げ、SNSなどを通じて番組の認知度がさらに向上した。ポッドキャストで関西圏以外からも視聴可能なため、海外を含めて全国からメッセージが寄せられ、好評を得ている。

◇「輝け！お寺の掲示板大賞2021」について

寺院に設置されている掲示板の標語を撮影して、インターネットのSNS（TwitterやInstagram）に投稿してもらい、反響等を参考にしながら大賞を決定する「輝け！お寺の掲示板大賞2021」を開催した。第4回目を迎えた今年度は令和3年7月1日から10月20日まで作品を募集。今回も投稿された作品がテレビ・ラジオ・週刊誌など数多くのメディアに取り上げられ、4か月の応募期間の間に昨年の第3回の総投稿数を1,200作品以上上回る総計2,887作品が集まった。今回の大賞は真宗大谷派超覚寺の掲示板（標語内容「仏の顔は何度でも」）が選ばれた。

◇島根県仏教会主催 全日本仏教徒会議島根大会ブース出店について

令和3年10月1日（金）～2日（土） 島根県民会館にて、第45回全日本仏教徒会議島根大会が開催（令和2年開催予定がコロナにより1年延期）予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、日程が2日（土）の午後半日となり、さらに来場者は島根県内からに限るとの制限が設けられたため、ブース参加は見送った。なお、当日の様子はオンライン配信された。

◇オンライン法話会「週刊法話ステーション」について

新型コロナウイルス感染拡大防止対策が続く現状を踏まえ、映像配信サービスZOOMを使用したオンライン配信による法話会を令和3年1月から毎週水曜日18時から30分間放送している。一ヶ月1テーマを設定し、それに沿ったご法話を1週間にお一人、一ヶ月に4または5名の僧侶の方がたにお話しいただいた。令和3年1月の放送開始から令和4年3月末までの放送回数は計58回、視聴者数合計はのべ1,300名となっている。また、アーカイブを仏教伝道協会公式YouTubeチャンネルより配信している。

2. 仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤を確立することを目的に、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

令和3年度は、仏教音楽祭の予定はなく、音楽普及委員会の開催もなかったが、「築地本願寺のパイプオルガンの入替プロジェクト」が始動。音楽普及委員会の逸見道郎委員長をチームリーダーにワーキングチームによる検討会議を行い、「建替委員会」（委員長 安永雄玄 築地本願寺宗務長）を経て、河合楽器製作所提案イタリアZanin社製電気式パイプオルガンを発注する方向で検討を進めることが決定された。

3. 三田落語会の事業について

(株)文化放送、(株)エムアイティギャザリングの主催する「三田落語会」に、協賛団体として協賛広告費75万円（3公演分）の支出を予定していたが、公演はすべて中止となり、支出はなかった。

4. 貸し会議室事業に関する事項

◇公益目的事業としての施設の貸与事業について

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進し、もって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常（一般）価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献を果たしている。

令和3年度の会議室の公益目的利用実績（公益財団、公益社団等の使用）は122件であった。

II. 収益事業報告（収1）

◇収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間は一般に向けて貸与する事業を行っている。

令和3年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は107件であった。

Ⅲ．事務報告

1．役員等に関する事項

理事・監事

(令和4年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
会長 (代表理事)	木村清孝	非常勤	令和3年6月25日 (再任) 令和3年6月25日 代表理事再任	東京大学名誉教授
理事長 (代表理事)	桂 紹隆	非常勤	令和3年6月25日 (再任) 令和3年6月25日 代表理事再任	広島大学名誉教授 龍谷大学名誉教授
常務理事 (代表理事)	青木晴美	常勤	令和3年6月25日 (再任) 令和3年6月25日 代表理事、常務理事再任	元株式会社ミットヨ 取締役常務
理事	門脇邦彦	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	日本空港ビルデング株式会社 名誉会長
理事	野村邦武	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元富士銀行代表取締役常務
理事	生田忠士	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元株式会社ミットヨ取締役
理事	沼田恵明	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	株式会社ミットヨ 代表取締役社長
理事	塩入亮乗	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	浅草寺本堂部
監事	中野東禅	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	竜宝寺前住職
監事	松村智司	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元第一勧業銀行取締役

評議員

(令和4年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
評議員	中川 徹	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元株式会社ミットヨ会長
評議員	平田史郎	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	国府台女子学院学院長
評議員	阿 純孝	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	圓融寺名誉住職
評議員	西本照眞	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	武蔵野大学学長
評議員	逸見道郎	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	浄土寺住職
評議員	石井清純	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	駒澤大学教授 駒澤大学第31代学長
評議員	吉水千鶴子	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	筑波大学教授
評議員	渡邊清春	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	株式会社ミットヨ執行役員 経理部長
評議員	三原正資	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	元日蓮宗現代宗教研究所所長
評議員	高山久照	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	公益社団法人日本仏教保育教会理事長
評議員	佐藤和敏	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	株式会社共生代表取締役社長

顧問

(令和4年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
顧問	菅原伸郎	非常勤	平成25年4月1日	元朝日新聞こころ 編集長
顧問	松田正典	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授
顧問	北島典生	非常勤	平成25年4月1日	浄土真宗本願寺派勧学
顧問	高島孝範	非常勤	平成25年4月1日	仏教伝道協会元常務理事

2. 理事会・監事会・評議員会に関する事項

(a) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和3年6月9日（水） （令和3年度第1回通常）	<p>【決議事項】</p> <p>令和2年度事業報告および収支決算報告の件 定款変更案承認の件 評議員会に提出する役員等候補者承認の件 令和3年度定時評議員会開催の件</p> <p>【報告事項】</p> <p>令和2年度資産運用報告の件 重要な使用人の退職の件</p>	<p>可 決</p> <p>可 決</p> <p>可 決</p> <p>可 決</p> <p>報 告</p> <p>報 告</p>
令和3年6月25日（金） （令和3年度臨時）	<p>【決議事項】</p> <p>代表理事の選定ならびに会長、理事長、 常務理事選定の件</p>	<p>可 決</p>
令和3年11月24日（水） （令和3年度第2回通常）	<p>【決議事項】</p> <p>沼田仏教講座新規開設及び運営維持助成金、 海外協力機関活動支援助成金の件 中国料理菩提樹経営支援の件</p> <p>【報告事項】</p> <p>代表理事の職務の執行の状況の報告 令和2（2020）年度助成金事業実施評価 報告の件 諸規則諸規程改定の件</p>	<p>可 決</p> <p>可 決</p> <p>報 告</p> <p>報 告</p> <p>報 告</p>
令和4年3月25日（金） （令和3年度第3回通常）	<p>【決議事項】</p> <p>令和4年度事業計画および収支予算書承認の件 役員賠償責任保険契約締結の件</p> <p>【報告事項】</p> <p>代表理事の職務の執行の状況の報告</p>	<p>可 決</p> <p>可 決</p> <p>報 告</p>

(b) 監事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和3年6月4日（金）	令和2年度財産状況および業務執行状況	正確であることを確認

(c) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和3年6月25日（金） （令和3年度定時）	【決議事項】 令和2年度事業報告および収支決算報告の件 定款変更の件 諸規則諸規程改定の件 任期満了に伴う理事改選の件 任期満了に伴う監事改選の件 任期満了に伴う評議員改選の件 【報告事項】 令和3年度事業計画および収支予算の件 令和2年度資産運用報告と令和3年度資産運用方針および計画の件 重要な使用人の退職の件	可 決 可 決 可 決 可 決 可 決 可 決 報 告 報 告 報 告

以 上

令和3年度事業報告 附属明細書

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和4年6月
公益財団法人仏教伝道協会
代表理事（理事長） 桂 紹隆